大学名 愛知教育大学

第74号 特集タイトル 「未来社会に向けた教員養成」

表題

「共創的教員養成」で教職の魅力向上と地域の課題解決を目指す

社会価値は競争から共創へ

昨今、様々な領域において「共創(co-creation)」という言葉を目にすることが多くなっているが、それが象徴するように、社会活動の土台は「競」から「共」、「争」から「創」にシフトしている。愛知教育大学では、その転換はこれからの教員養成においても極めて重要だと考え、2021年3月に「愛知教育大学未来共創プラン」という中長期ビジョンを策定・公表した。この「未来共創プラン」では、「共創」を軸として教員の資質・能力の向上や教職の魅力などにかかわる取組を多様な連携、協働を基に行っている。

「子どもキャンパスプロジェクト」という挑戦

共創的教員養成を目指した取組の一つが、「子どもキャンパスプロジェクト」である。これは大学及びその周辺地域を「学び」と「遊び」を一体化できるエリアとして、実践フィールドと実践プログラムを提供するものである。具体的には、地域の企業やスポーツクラブ・NPO法人等と協働して地域の抱える諸課題を解決する「地域協働教育体験活動」を教育課程に組み込むとともに、附属学校や公立学校の遠足や校外学習の受入を行う。また、学生が

自らの興味・関心をもとに主体的に プログラムを企画することも奨励し、 その成果を地域に還元する場とし て子ども向けイベント(「あつまれ! 子どもキャンパス」)を実施している。 2023年度は約6,500人、2024年度 は11月末時点で約4,900人の子ど もたちや保護者、学校教員等が本 学に来訪した。



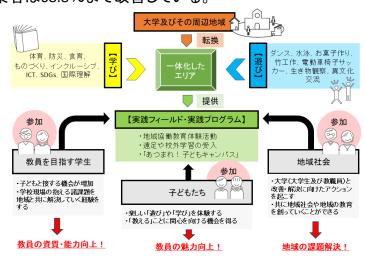
「あつまれ!子どもキャンパス」で 運動あそびをする小学生と学生

共創的教員養成が目指す社会的インパクト

共創的教員養成が目指す主な社会的インパクト、そして未来社会の姿は以下の三点である。

- 1, 教員を目指す学生は、子どもと接する機会を増やすとともに、 学校現場の抱える諸課題を地域と共に解決していく経験をする ことで、教員に必要な資質・能力を高める。
- 2, 子どもたちは、教員を目指す学生と楽しい「遊び」や「学び」 を体験するとともに、「教える」ことに関心を向ける 機会を得て、 教職の魅力を高める。
- 3, 地域社会は、自らの抱える諸課題を大学(大学生及び教職員)と改善・解決に向けたアクションを起こすことで、共に地域社会や地域の教育を創っていくことができる。

なお、本学教員養成課程の教員就職率について、「未来共創プラン」策定時の2021年3月卒業者は61.2%であったが、2023年3月卒業者は68.8%まで改善している。



愛知教育大学未来共創プラン: https://www.aichi-edu.ac.jp/cocreate/